

---

# 石狩市観光振興計画

---

## 「石狩の宝発掘宣言」



平成19年3月

經濟部商工労働観光課

# 目次

---

序章――観光で「まちづくり」	
1. 計画の趣旨	1
2. 計画の目的	1
3. 計画の期間	1
第1章――石狩観光の現状と課題	
1. 合併メリットを生かすのは、これから	2
2. 観光客・旅行業界からみた石狩観光	2
3. 市が率先して始める「協働」	3
第2章――目指す「観光・石狩」の姿	
1. 観光振興の基本理念	4
2. 計画の目標	5
3. 4つの基本方針	5
4. 施策の基本方向	6
5. 協働の姿	10
第3章――計画の具体的施策	
1. 重点プロジェクト	12
2. 基本施策	18
第4章――アイデア・ヒント集	25

●表紙絵画／「海のたからもの」 見吉星哉君（石狩市浜益小二年）

第9回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展（平成19年3月、日本ユネスコ協会連盟主催）

特選「あいおい損害保険株式会社賞」受賞

# 序章---観光で「まちづくり」

---

## 1. 計画の趣旨

今、北海道観光が見直されています。少子・高齢化、グローバル化、情報化など、わが国の社会環境が大きく変化する中、価値観やライフスタイルの多様化を反映して、人々の観光ニーズも多様化しているからです。そして、世界規模の大交流時代となった今、観光は「21世紀のリーディング産業の一つ」と、世界中で認識されています。観光は、地域の産業すべてを活性化させ、働く場を増やし、地域を潤す——その価値を多くの人が認めている今日、国は「観光立国」を目指すと言明し、これを受けて北海道も「北海道観光戦略」を策定して、新しい北海道観光の基盤整備に向けて動きはじめました。

このような中、石狩市は幸いにも、平成17年の3市村合併によって観光資源が増大しました。石狩の市民、美しい自然や景観、豊富な食材、地域固有の文化・歴史など市にあるすべてのものが「観光資源」といえます。私たち石狩市民が持つ、これらすべての観光資源を活用・整備し、新しい観光スポットの創設、観光ルートの開発などにより、「**魅力があり、観光で地域が潤うまち**」を目指します。

## 2. 計画の目的

「観光」という視点で、市民・事業者・行政が協働してまちづくりに取り組むことによって、まちの発展に寄与し、地域のすべての人々に恩恵をもたらします。観光客が喜ぶ姿は、事業者の利益をもたらすだけでなく、市民の市への愛着・誇りの醸成ともなり、市にとっては収入が増すことで市民サービスを拡大できることにつながります。「協働によってまちを発展させる」というサイクルは、地域の資源（宝）を磨くことで無から有を生み、また、有を拡大させ、地域のすべての人々の利益（潤い）を増すという好循環を形成します。

このような協働のサイクルを活発化するためには、「協働は、地域のすべての人々のため」という共通認識に立ち、全市を挙げて観光に取り組むことが求められていると考えます。

3市村合併前のそれぞれの取り組みでは小さかった発信力も、合併によって大きくできるチャンスが到来した今、観光を土台にしたまちづくりに協働で着手し、本市を未来に向けて発展させることを本計画の目的としています。

## 3. 計画の期間

本計画は、平成19（2007）年度から10年間で取り組みます。なお、計画策定後は、この進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会的情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととします。

# 第1章---石狩観光の現状と課題

## 1. 合併メリットを生かすのは、これから

3市村が合併した平成17年度の観光入込客数は、日帰り・宿泊合わせて173万人と、隣市の小樽市と比べて約5分の1弱程度でしかありません。一方で、本市の特性を考慮すれば、札幌市に隣接しており、暑寒別天売焼尻国定公園などの自然環境・景観に優れていること、新鮮で豊富な農水産物があること、魅力的な観光・交流資源があり、500以上の市民団体が活発に活動していることなどを効果的に活用することによって、入込客数を格段に増加させることが期待できます。

## 2. 観光客・旅行業界からみた石狩観光

平成18年7～9月に行った「石狩市観光調査」では、観光入込客の約3割が30歳代の家族連れ、次いで20歳代と40歳代がそれぞれ約2割を占めており、キャンプ目的を除けば、ほとんどが札幌からマイカーを利用した海水浴や海産物購入などを主目的とする日帰り客です。「ドライブの途中、看板や道路標識などを見て立ち寄った」という人も多く、「あそびーち」に行った人は「番屋の湯」、「川下海水浴場」に行った人は「浜益温泉」に立ち寄るなど、海水浴客は日帰り温泉を利用する傾向が見られます。リピーターも多く、全体として満足度は高い傾向にありますが、漁港における海産物の販売環境などに不満をもらす声も少なくありません。

旅行業界や札幌市民などには、海水浴場・ドライブルートとして認知されているものの観光地としての認識は薄いという現状がある一方、観光地に期待する要素が「自然の風景」「温泉」「飲食施設」「イベント・祭り」「宿泊施設」の順で挙げられていることを踏まえると、浜益区の農水産物や景観の魅力、「濃昼山道」や「恋人の聖地」など新しい観光スポットが注目される厚田区など、観光客の多様なニーズに応えるべく体験メニューの拡充が求められています。

### 【参考】石狩市観光調査

石狩観光の特性や可能性、観光客のニーズを把握し、石狩市の観光振興にとって必要な諸課題を抽出するため、平成18年7～9月、札幌国際大学観光学部の協力により実施。

調査はA、B、Cの3種類に分けて行い、対象は市内主要観光施設に来訪した観光客(=観光調査A)、観光事業者(=観光調査B)、札幌市内の潜在的観光客(=観光調査C)。

- ・観光調査A：市内の主要な観光施設等で調査票を用いて実施。回答数482人。
- ・観光調査B：旅行会社、メディア等の観光事業者から意見を聴取。旅行会社5社、メディア3社、レンタカー会社1社。
- ・観光調査C：札幌大通公園で開催されたイベント「リンケージアップフェスティバル」で調査票を用いて実施。回答数420人。

# 第1章---石狩観光の現状と課題

---

## 3. 市が率先して始める「協働」

本市を観光地として認識している市外の人が少ないという現状の一方で、観光振興に有用な多くの資源が本市に内在しているという事実とその価値に気付いている市民もまた、残念ながら多くはありません。また、それ以前に、昨今の多様化する観光ニーズに対して観光客を十分に満足させるだけの資源の活用手法や受け入れ体制が充実していないという現状があります。

市には、「観光立市」も今後のまちづくりにおける一つの重要な取り組みであるという認識のもと、市が保有している情報を的確に市民や事業者に伝えることによって、観光振興に資することが出来るよう、豊富な情報提供によるバックアップ体制を整えることが求められています。

観光客が求める需要に的確に応えるため、観光関連団体・企業・事業者をはじめ、基幹産業である農漁業・地域住民・市が協働して観光素材を掘り起こし、磨き上げ、癒しや感動を与えることのできる、ホスピタリティ（おもてなしの精神）あふれる体制づくりなど、多面的な取り組みを進めていくことで、「**魅力があり、観光で地域が潤うまち**」が実現します。

## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

### 1. 観光振興の基本理念

#### 石狩の宝発掘宣言

石狩の宝を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す

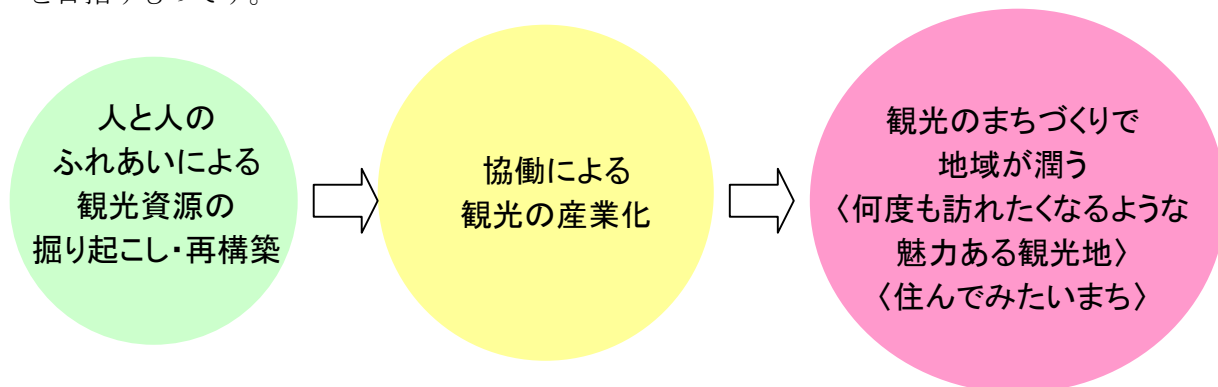
『青い鳥』の寓話にあるように、幸福(地域の潤い)をもたらす宝物は身近にあるものです。私たちは、そのことに気付かずに、多くの機会を失っているのではないのでしょうか。石狩の市民、美しい自然や景観、豊富な食材、地域固有の文化・歴史など市にあるすべてのものを「観光資源」としてとらえることで、石狩観光振興の可能性は広がっていきます。

従来の観光開発は、ほとんどが経営資本による観光エージェントによって推進されてきたために、住民不在の観光事業が展開されることが多く、地域へ負担ばかりがのしかかるとか、また、地域が経済活動に利用されるだけといった例が多数発生していることは、マスコミ等の報道によって周知のことでしょう。そこで本市では、単に市内に数多くの観光施設を開設させることを目的とせず、既存の観光資源の保存・再生・活用に重点を置いた観光振興を目指し、「何度も訪れたいような魅力ある観光地づくり」イコール「住んでみたい街づくり」を進めます。

また、観光客と住民が交流する「人と人のふれあい」を通じて、自らの地域に対する魅力を再発見し、自信・誇りの醸成や地域住民のホスピタリティの向上を目指し、地域の活性化を図ることを目標とします。

それには、観光に関連する団体・企業・事業者をはじめ、基幹産業である農漁業者・地域住民・市が協働して観光振興に取り組む姿勢が不可欠です。地域社会が自立的かつ主導的に「地域体力」にあった観光開発を進めていくことにより、継続的に地域の振興を進めることで、結果として観光産業が創出され、経済効果が得られるものと考えます。

合併の効果による観光振興と新石狩らしさを追及し、**観光のまちづくりによって地域が潤う**ことを目指すものです。



## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

### 2. 計画の目標

観光入込客数の増加、市のホームページアクセス数の増加（観光部門）を成果指標とし、「観光客の満足度を高める」「経済の波及効果を高める」「市民の満足度を高める」という質的目標を設定します。

### 3. 4つの基本方針

観光振興の基本理念に基づき、目標達成に向けた基本方針を次のとおり設定します。

#### 1 「地域個性を生かした観光」で潤う

- ・ 文化的背景や歴史、自然・景観、産業など、石狩市としての地域特性をよりどころとした観光のまちづくりを進めます。
- ・ 市民との協働による観光資源の発見・再構築・創出などを通じ、地域ぐるみで石狩観光の魅力を高めます。

#### 2 「農山漁村の価値を高める観光」で潤う

- ・ グリーンツーリズム、産業観光、街道観光、都市観光、視察観光などのニューツーリズムへの取り組みや石狩ブランドの開発を通じ、第1次産業、農山漁村の価値の創造を促進します。

#### 3 「お客様の視点から始める観光」で潤う

- ・ 地域ぐるみのホスピタリティの向上、観光情報サービスの強化などのソフト面から、交通アクセス、案内表示、施設の造り方などのハード面まで、観光客を温かく迎える環境整備を進めます。

#### 4 「持続可能な観光」で潤う

- ・ 観光を担う人材の育成を図り、親から子へ、そして孫へと、その地域でいつまでも続けられる観光の確立を目指します。
- ・ 美しい風景、営々と続く生態系を、利用者と提供者双方が守り、未来に残すという意識を持って観光のまちづくりを進めます。

## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

---

### 4. 施策の基本方向

基本理念、基本方針に基づき、推進期間内において実効性が高い新たな観光振興施策を絞り込み、12の視点から具体的事業を展開することとし、中でも先導的、中核的に取り組む事業を重点プロジェクトとして展開します。

#### 1 「地域個性を生かした観光」で潤う

＜重点プロジェクト1＞ ・石狩鍋復活プロジェクト →P. 12参照

＜重点プロジェクト2＞ ・厚田公園展望台「恋人の聖地」プロジェクト →P. 13参照

##### ①観光資源の活用・整備 →P. 18～P. 19参照

- ・観光資源・施設の魅力再構築
- ・フィルムコミッション、マスコミ等との連携
- ・交流拡大プログラムの整備(体験、グリーン、教育旅行等)
- ・既存イベントとの連携強化
- ・イベントによる経済波及プログラムの開発

##### ②魅力ある観光ルートづくり →P. 19～P. 20参照

- ・滞在促進のための環境整備
- ・地域資源を生かした体験型観光の振興
- ・市民と観光客が楽しめる観光メニューの創出

##### ③国や道との連携 →P. 20参照

- ・国や道との連携による観光開発の調査・研究



## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

---

### 2 「農山漁村の価値を高める観光」で潤う

〈重点プロジェクト3〉・森の活用プロジェクト →P. 14参照

④石狩ブランドの確立 →P. 20～P. 21参照

- ・石狩ブランドの確立と商品の開発
- ・プロモーション活動の充実

⑤産品販売体制の整備・充実 →P. 21参照

- ・朝市の整備・充実
- ・食事場所の整備・充実

⑥グリーンツーリズムの推進 →P. 21参照

- ・森林資源の活用
- ・農漁業者による観光事業への展開

### 3 「お客様の視点から始める観光」で潤う

〈重点プロジェクト4〉・浜益温泉魅力アッププロジェクト →P. 15参照

〈重点プロジェクト5〉・情報発信プロジェクト →P. 16参照

⑦受け入れ体制の整備 →P. 22参照

- ・もてなしの心の醸成・啓蒙
- ・観光ボランティアの育成
- ・質の高い宿泊サービスの提供拡大
- ・生活空間の美化(道路・河川・海岸・公共施設の美化、ごみ対策、市民の庭づくりなど)
- ・外国人対応の向上

## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

---

### ⑧情報ネットワークの整備・充実 →P. 23参照

- ・観光案内板の整備・充実
- ・観光情報提供ツールの発行・充実
- ・観光情報提供体制の整備・充実

### ⑨交通ネットワークの整備・充実 →P. 23参照

- ・観光流動と市民生活を支える交通インフラの整備促進
- ・市内交通環境の充実

## 4 「持続可能な観光」で潤う

### <重点プロジェクト6> ・手つなぎプロジェクト →P. 17参照

### ⑩人とまちの連携強化 →P. 17参照

### ⑪観光事業者への支援 →P. 24参照

### ⑫広域観光の推進 →P. 24参照

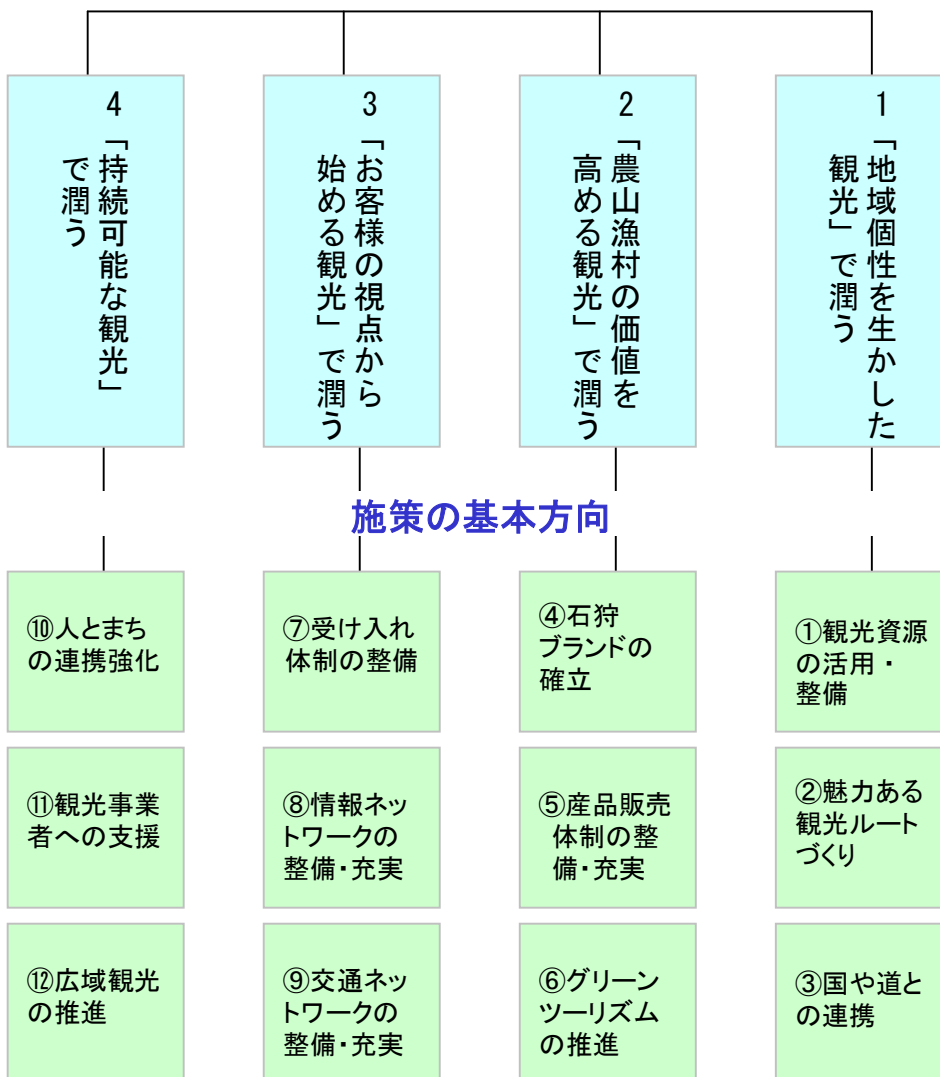
- ・道や札幌との連携
- ・オロロンライン広域圏との連携
- ・国と連携した外客誘致活動の実施

## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

### 基本理念

石狩の宝を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す

### 4つの基本方針



## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

### 5. 協働の姿

本計画を着実に実行し推進していくためには、その主体となる市民、地域・事業者、市・観光関連団体、国・北海道が共に汗をかき、協働していく必要があります。それぞれの役割に応じて、自主的・積極的な取り組みを進めるとともに、相互に理解・協力しあって、「観光・石狩」の未来を切り開いていくことが求められています。

#### (1) 市民

##### ●求められるもの

市民は、それぞれの地域において、郷土とともに歩み、郷土の発展に寄与してきました。地域経済・文化の担い手であり、まちづくりの主役です。郷土への愛着と誇りを持ち、積極的に郷土の魅力を発信する主体となることが期待されています。

市民は、観光客に温かい心と態度をもって接し、観光ボランティアなど積極的な役割を果たし、観光客の利便を図ることに努めます。

##### ●得られるもの

地域への誇りや愛着の醸成・向上  
雇用機会  
生活環境の向上

#### (2) 地域・事業者

##### ●求められるもの

地域の基幹産業である農漁業をはじめとし、商工業も観光の重要な担い手です。モノやサービスを提供していること全てが観光につながると考えられます。事業者はそのことを意識して新たな魅力づくりに取り組むとともに、交通・宿泊・飲食・土産など、観光事業者相互の連携を強化し、観光客へのサービス向上に努めます。また、観光によって得られた利潤を地域に還元し、地域の活性化を促進します。

##### ●得られるもの

営業・販売機会の拡大・創出  
利潤  
地域の発展  
雇用

## 第2章---目指す「観光・石狩」の姿

### (3) 市・観光関連団体

#### ●求められるもの

石狩市は、観光振興というテーマに対して、国や北海道との適切な役割分担により、本市の特性を生かした観光振興に取り組みます。また、地方公共団体が相互に広域連携する体制を構築し、効率的な観光施策を実施します。地域の活性化を促進するため、既存施設の利活用や新たな観光資源の発掘・創出を図るとともに、観光振興のための情報収集・分析に努め、効率的な観光情報を提供することはもとより、観光客の利便が確保されるよう、社団法人石狩観光協会をはじめとする観光関連団体などとの連携を進めます。

社団法人石狩観光協会は、観光振興を推進する中核的存在としての役割を發揮するため、組織体制の充実を図るとともに、関連団体間の連携強化、効果的な誘致宣伝活動の展開やホスピタリティの向上に努めます。

#### ●得られるもの

収入の増加  
市の発展  
市民の理解

### (4) 国・北海道

#### ●求められるもの

観光基盤整備の観点から、体験型や交流型などの新たな地域観光資源の発掘・創出を図り、観光地間のネットワーク向上に努めます。

#### ●得られるもの

国・道の発展  
国民・道民の理解

### 1 「地域個性を生かした観光」で潤う

#### 重点 プロジェクト 1

#### 全国区ブランドの掘り起こし 石狩鍋復活プロジェクト

全国でも知名度の高い「石狩鍋」を、市内の多くの飲食店で提供できるよう、復活運動を展開します。活動拠点を「本町地区」とし、積極的なPR活動を通して石狩の食文化を広げるきっかけをつくります。



#### 展開事業

##### ○「石狩鍋」提供店倍増作戦

内容: 地元食材を積極的に使った石狩鍋を提供する飲食店が増えるよう、広域PR・キャンペーンを展開します。

エリア: 主に新港・本町地区

推進主体: 観光協会、漁協、商工会議所、商工会、料飲店組合、石狩鍋提供店、観光事業者、市

##### ○健康重視の「石狩鍋」開発

内容: 産学官の連携により、「石狩鍋」の栄養バランスを調査した上で、その結果をもとに健康面に焦点をあてた調理方法を開発します。

エリア: 主に新港・本町地区

推進主体: 観光協会、漁協、農協、藤女子大学(人間生活学部)、石狩鍋提供店、市

##### ○こだわりの「レトルト石狩鍋」開発

内容: 通信販売を求める市外からの問い合わせが比較的多いこと、またレトルトの技術向上を背景に、味にとことんこだわった「レトルト石狩鍋」を開発します。

エリア: 主に本町地区

推進主体: 観光協会、漁協、農協、藤女子大学(人間生活学部)、石狩鍋提供店、観光事業者

##### ○漁師さんと一緒に石狩鍋！

内容: いしかり湾漁協「朝市」の協力を得て、朝市で石狩鍋が食べられる体制を整えます。

エリア: 新港地区

推進主体: 観光協会、漁協、農協、石狩湾新港管理組合

##### ○「石狩三大鍋」作戦

内容: 厚田の「ハタハタ鍋」、浜益の「カジカ鍋」と並べて“鍋のまち・いしかり”の印象を強調し、同時に「石狩鍋」のブランド価値のさらなるアップを図ります。

エリア: 主に新港・本町地区、厚田区、浜益区

推進主体: 観光協会、漁協、農協、料飲店組合、石狩鍋提供店、観光事業者、市

##### ○「石狩鍋」学校給食

内容: 小中学校の給食に地元食材を使った石狩鍋を提供し、子どもたちの郷土料理への愛着を深めます。

エリア: 全市

推進主体: 教育委員会

#### プロジェクト の背景

平成18年8月に、㈱ブランド総合研究所が全国779市を対象に実施した『地域ブランド調査』で、「石狩鍋」は「郷土料理の部」で10人にひとりが「食べてみたい(全国第5位)」という高い評価を得ています。

### 1 「地域個性を生かした観光」で潤う

#### 重点 プロジェクト 2

### 永遠の愛誓う観光のメッカに 厚田公園展望台「恋人の聖地」プロジェクト

ブライダルデザイナー桂由美氏が中心となり、全国で展開している「恋人の聖地」プロジェクト。平成18年7月に「恋人の聖地・道内第1号」として認定された厚田公園展望台を活用し、若い世代に向けた誘客事業を実施します。



#### 展開事業

##### ○Ishikari あいロードプロジェクト

内容：厚田公園展望台「恋人の聖地」をプロジェクトの象徴として、若い恋人たちをターゲットに、「i」（市名の頭文字）、「あい風」（厚田区で古くから言われる、幸せを運ぶ海からの風）、「愛冠岬」（浜益区昆砂別の海岸にある岬）の3つの「あい」を基に、「オール石狩」で「あい」あふれる魅力的なおもてなしメニューを多数提供します。

実施方法：・おもてなし可能な施設・店舗の積極的な紹介（チラシ、ホームページ、メディアへの情報発信など）  
・グッズ販売体制の整備

エリア：全市

推進主体：観光協会、商工会議所、商工会、藤女子大学（人間生活学部）、石狩ライオンズクラブ、サンクチュアリプロジェクト、観光事業者、地域住民、市

##### ○誘客イベントの開催

内容：ishikari あいロードプロジェクトと連携し、各種誘客イベントを展開します。

【例】＜夏期＞既存イベントに合わせた集客イベントの実施  
＜冬期＞クリスマスイベント、キャンドルナイトなど

エリア：全市

推進主体：観光協会、商工会議所、商工会、藤女子大学（人間生活学部）、石狩ライオンズクラブ、サンクチュアリプロジェクト、観光事業者、地域住民、市

#### プロジェクト の背景

平成18年7月に「恋人の聖地・道内第1号」として認定された「厚田公園展望台『恋人の聖地』」は、メディアでも大きく取り上げられたこともあって、多くの観光客が訪れています。「海水浴や灯台の石狩」に「恋」「愛」といった新たなイメージを吹き込み、本市の観光振興に大きく寄与しています。認定を機に、地元飲食店による「恋人の聖地」にちなんだカップルメニューの開発提供、地元企業は同展望台にちなんだ商品を開発し、大ヒットさせるなど、同展望台がもたらす経済波及効果は絶大なものがあります。このブームを継続させるために、引き続き新たな観光施策の展開が極めて重要となっています。

# 第3章---計画の具体的施策

## 1. 重点プロジェクト

### 2 「農山漁村の価値を高める観光」で潤う

重点  
プロジェクト  
3

総面積7割を占める森林資源を生かす  
森の活用プロジェクト

6年間に渡って濃屋山道保存会による整備が進められてきた厚田区の「濃屋山道」が平成17年秋に再び開通し、多くの人々の注目を集めています。これをきっかけに市内でも森林資源の活用が積極的に検討されるようになっており、新たなドライブコースの創設なども視野に入れながら、観光客の受け入れ体制を強化することはもちろん、森林を軸とするツアーの充実を図り、石狩の森林の知名度アップを狙います。



#### 展開事業

##### ○林道ウォーク&マラソン

内容:平成18年に第1回を開催し、森林資源の観光活用としての新規性や、昨今の自然の中に癒しや健康を求める傾向を反映して今後も集客が期待されることから、本事業を毎年継続して実施していきます。

エリア:厚田区、浜益区

推進主体:観光協会、濃屋山道保存会、こがね山岳会、いしかり森林ボランティア「クマゲラ」、観光事業者、地域住民、市

##### ○濃屋山道の活用促進

内容:旅行会社企画のツアーや自然愛好団体による鑑賞会、ホーストレッキングなど多様な観光需要に対処するために、山道の所有者である国(森林管理署)と活用促進の手法を協議し、多くの観光客を受け入れられる体制を整備します。

エリア:厚田区

推進主体:観光協会、濃屋山道保存会、こがね山岳会、いしかり森林ボランティア「クマゲラ」、観光事業者、地域住民、市

##### ○山道めぐりツアー

内容:濃屋山道、送毛山道、増毛山道および厚田山道(現・道道月形厚田線)の一体的活用を検討し、各山道を通じての交流人口の増加を目指します。

実施方法:各山道を森林インストラクターと歩くツアーの企画

エリア:厚田区、浜益区

推進主体:観光協会、濃屋山道保存会、こがね山岳会、いしかり森林ボランティア「クマゲラ」、観光事業者、地域住民、市

#### プロジェクト の背景

平成18年年9月に行われた第1回浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク&マラソンでは、川下新市街線から竜神沢線を経由して浜益実田線と続く10kmをコースとし、大人でマラソンの場合1,800円、ウォーキングの場合1,300円という料金設定で実施されました。参加者はマラソン88人、ウォーキング175人と盛況で、コース途中で眺める日本海など、景色の良さも参加者から好評を得ました。



### 3 「お客様の視点から始める観光」で潤う

重点  
プロジェクト  
4

年間10万人利用を目指して

## 浜益温泉魅力アッププロジェクト

浜益地区に釣りや登山、海水浴で訪れる人たちは、帰途、その汗を流してさっぱりするために、浜益温泉に立ち寄る確率が高い傾向にあります。今後は、その傾向を踏まえたツアーの展開や、利用者の満足度を高めるためのサービスを開発・提供することでリピーターの増加へと結び付け、民宿との連携を進めて浜益地区の観光客増加を図ります。



### 展開事業

#### ○健康と癒しのメニュー開発

内 容: 浜益温泉の効能に合わせ、地場産品を使った疾病別の特別料理を地域で提供します。

実施方法: ・産(民宿)、学(藤女子大学)、官で料理メニューを開発し、閑散期の民宿や食事施設で提供

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、藤女子大学(人間生活学部)、指定管理者、観光事業者、市

#### ○夏休み親子見学ツアー

内 容: 新港地区の工場見学と、川下海水浴場での海水浴+浜益温泉をセットにした、夏休み限定プランを企画・展開します。

エリア: 新港地区、浜益区

推進主体: 観光協会、石狩開発株、指定管理者、石狩湾新港管理組合、市

#### ○施設環境の整備

内 容: 浜益温泉の利用状況をより詳細に調査した上で、施設環境を整え、観光客および地元住民の利用向上を図ります。

実施方法: ・地場産品の販売

・一流シェフによる、地元食材を使った食のイベントの開催

・湯上りに効(聴)く健康講座

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、指定管理者、市

#### ○タイアップツアーの推進

内 容: 旅行会社による黄金山、濃昼山道の登山・ハイキングツアーに、浜益温泉をセットしたツアー企画を推進するよう、積極的に働きかけます。

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、指定管理者、市

### プロジェクト の背景

神経痛や筋肉痛などの効能がある温泉。山々に囲まれた露天風呂やパイプバス、サウナなどがあり、ホールや休憩室、和室といったくつろぎの空間もあります。隣にはパークゴルフ場も併設。現在、温泉利用者は年間約9万人。

# 第3章---計画の具体的施策

## 1. 重点プロジェクト

### 3 「お客様の視点から始める観光」で潤う

#### 重点プロジェクト 5

#### 新鮮な情報でまちの知名度をアップする 情報発信プロジェクト

観光情報の入手先として「知人・友人の口コミ」を一番の情報源とする人々が多い現状（石狩市観光調査結果）に対応して、今後は、彼らが真に欲する情報である「地域住民の持つ生の情報」をいち早く提供できる体制を構築します。



### 展開事業

#### ○プレスリリース戦略会議

内容: 戦略的・計画的に観光情報を発信するため、観光関係者による会議を定期的に行います。

実施方法: 会議は情報発信の2カ月前から開き、観光情報の収集や絞り込みを行います。

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、マスコミ関係者、市

#### ○観光情報ペーパーの発行

内容: 観光情報ペーパーや観光ガイドマップ、食のカレンダーを発行することで旬の観光情報を提供します。

実施方法: ・「いしかり観光お出かけニュース」

観光スポットやまちの話題をいち早く伝える情報ペーパー。市内の各公共施設で入手できるほか、札幌圏の観光客を見込み、新港の企業に向けFAXによる一斉配信も行っています。

・「観光ガイドマップ」

市内の食・土産・遊び・イベント情報を網羅したガイドマップを発行します。

・「いしかり“食”のカレンダー」

石狩でとれる魚介類や農産物の旬の時期を掲載したカレンダーを、市民の協力で発行します。

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、観光事業者、市

#### ○地域FM・ネットTVの活用

内容: 地域密着型のラジオやインターネットテレビを活用し、広く石狩市の観光情報を発信、誘客を図ります。

実施方法: ・「さっぽろ村ラジオ」への出演や情報提供

・インターネットテレビ「えりすいしかりネットテレビ」への情報提供、活動支援

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、観光事業者、市

### プロジェクトの背景

これまでの観光情報は「石狩さけまつり」や「石狩冬まつり」などイベント告知に終始してきましたが、実際に求められる情報は、桜や紅葉などの見ごろはいつか、飲食店や商品などの最新情報はないかといったより細やかな、旬の情報です。今後はそうした要求に応えるような情報発信方法を早急に確立することが求められています。

### 4 「持続可能な観光」で潤う

#### 重点 プロジェクト 6

#### 人を、まちをネットワークする 手つなぎプロジェクト

市内においては、エリアのつながりを強化し、情報を交換・共有することで効率的な観光振興を図ります。

市外においては、特に札幌市と札幌広域圏組合とのつながりを強化し、“点”から“面”への広域観光の実現を目指します。



#### 展開事業

##### ○観光戦略会議

内容:市内の観光産業に携わる実務者レベルのメンバーで構成した会議を組織し、石狩・厚田・浜益などのエリア別あるいは事業別に分科会を設けて、情報を交換・共有することで、観光振興プログラムの立案・実践を推進します。

エリア:全市 推進主体:観光協会、観光事業者、NPO団体、ボランティア団体、市

##### ○庁内連絡会議

内容:各部各課が一体となって観光振興の観点に立ち、地域の活性化に取り組むにあたっての共通認識と情報の共有を図ります。

推進主体:市

##### ○観光資源学習会の実施

内容:参加者同士が情報交換できる場として学習会を開催し、観光人材のレベルアップを図ります。

推進主体:観光協会、観光戦略会議、市

##### ○観光先進地視察

内容:先進地視察を通して、観光人材のレベルアップや観光資源に役立つ情報をいち早く入手し、観光事業に役立てます。

推進主体:観光協会、観光戦略会議、市

##### ○観光サポート体制づくり

内容:市内で観光客に道筋などを質問された時などには、市民が適切に観光案内できるよう「市民総観光ガイド化」を目指し、意識の啓発に向けた取り組みの強化や観光ボランティアの育成を図ります。

エリア:全市 推進主体:観光協会、観光事業者、市民、NPO団体、ボランティア団体、市

##### ○郷土意識の向上

内容:市内小中学校の社会科や総合学習などを活用し、小中学生の郷土意識向上を図ります。

エリア:全市 推進主体:観光協会、市内小中学校、市

##### ○広域ネットワークの構築

内容:1都市よりも数都市にまたがった広域観光の需要が高まっていることから、札幌広域圏組合の8市町村との連携を強化するとともに、空知圏、小樽市や増毛町などの“日本海オロロンライン”も従来どおり視野に入れながら、広い範囲でのネットワークづくりを進めます。

エリア:全市、近隣市町村 推進主体:観光協会、観光団体、札幌広域圏組合、国、道、市

#### プロジェクト の背景

本市は、札幌市、札幌広域圏組合と連携して、平成18年から東京、名古屋、大阪への観光プロモーションに積極的に参画しています。その背景には、複数の市町村が一体となって取り組むことで、より魅力あるプロモーション活動が展開できること、効率のよいイベント運営が可能となることが挙げられ、今後ますますこうした形での参画が進むと期待されています。

# 第3章――計画の具体的施策

## 2. 基本施策

重点プロジェクト以外の基本施策を次のように定め、推進します。

### 1 「地域個性を生かした観光」で潤う

#### ①観光資源の活用・整備

##### 海水浴場再生・活性化プロジェクト

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、海水浴組合、観光事業者、地域住民、市

海水浴場を「レジャー」「健康」など多面的な要素から再検証し、来場者の増加を図ります。

- 地元海産物等の直売
- 石狩、厚田、浜益の3地域共同イベントの開催
- 清掃体制の強化、公衆トイレ等の施設整備

##### 厚田海浜プールの開設(厚田海岸環境整備事業)

エリア: 厚田区

推進主体: 観光協会、道、市

水辺を中心とした多様な親水活動空間の形成を図ることを目的に、厚田区に海浜プールを開設します。

※第3次北海道長期総合計画の後期パートナーシップ計画(平成15年度～19年度)、道央圏「石狩地域やすらぎとふれあいのまちづくりプラン」の位置付け

##### 歴史・文化の発掘・発信

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、国、道、市

本市の歴史・文化を観光資源と捉え、国や道などと連携して積極的なPR活動を展開し、観光客の誘致を図ります。

【資源例】荘内藩ハママシケ陣屋跡(国指定史跡)、はまます郷土資料館、紅葉山49号遺跡、北海道遺産「石狩川」など

##### 北日本文化体験観光

エリア: 本町地区

推進主体: 観光協会、観光事業者、地域住民、市

北海道の歴史に大きな足跡を残し、和の風情が漂う本町地区で、外国人観光客にターゲットを絞った日本体験メニューを開発し、誘客します。

【例】書道体験、温泉入浴、茶道体験など

##### 冬観光プロジェクト

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、商工会議所、商工会、建設事業協会、観光事業者、市

雪や氷など北国ならではの観光資源を活用し、非日常を体験できるプログラムを開発して積極的に観光客を誘致します。

【例】除雪体験、除排雪見学、スノーモービル、スノートレイルなど

##### 浜益川サケ有効利用調査事業の推進

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、観光事業者、浜益川サケ有効利用調査実行委員会、市

釣道具の貸し出しなどの受け入れ態勢を整備し、旅行会社と連携の上、体験意欲のある観光客を誘致します。

## 第3章――計画の具体的施策

### 2. 基本施策

#### マリンスポーツの推進

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、観光事業者、市

スキューバダイビングスクールのライセンス取得コースにもなっている浜益区の海を、より一層の“ダイビング・スポット”としての周知に努めます。

#### イベントによる地域経済波及プログラムの開発

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、商工会議所、商工会、料飲店組合、観光事業者、イベント会社、市

「ライジングサンロックフェスティバル」などのイベントで訪れる多くの観光客に市内で商品等を購入してもらうため、市内全域で来場者割引などの地域経済波及プログラムの開発(ライジングサンロックフェスティバル入場証明バンドを提示することで、購入時割引を受けられるなど)を行います。

【例】(ライジングサンロックフェスティバルの場合)

○場外で新鮮な魚介類を提供

道外からの来場者が求める北海道の新鮮な魚介類は、場内での販売が禁止されていることから、市内飲食店が、来場者向けに提供できるシステム(臨時バスの運行など)を構築します。

○ツアー自由行動バック利用者の誘客

自由行動を設定しているツアー客を石狩に誘客するため、ツアー参加者に事前に石狩の観光情報を提供する仕組みを構築します。旅行業者企画段階からの参加を図り、イベント主催者に働きかけます。

<対象イベント> 海水浴/ライジングサンロックフェスティバル/農業祭り

## ②魅力ある観光ルートづくり

#### 本町地区観光客滞留メニューの開発

エリア: 本町地区

推進主体: 観光協会、観光事業者、地域住民、ボランティア団体、漁業者、市

新たな観光体験メニューを開発し、本町地区の活性化を図ります。

○遊覧船、ホーストレッキング、ヘリ遊覧、イクラづくり体験など

○漁ウォッチング(サケ漁、ホタテ漁、タコ漁など)

○地引網体験

#### 文化体験ツアーの推進

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、ボランティア団体、市

“俳句のまち”であることを生かして、俳句に親しむ「吟行ツアー」を観光事業化するなど、歴史や文化を体験できるメニューを企画、推進します。

#### 石狩湾新港と市民の交流推進(産業観光)

エリア: 新港地区

推進主体: 観光協会、石狩開発㈱、観光事業者、石狩湾新港管理組合、市

石狩湾新港見学ツアー(ホクレン パールライス工場、コープフーズ(株)食品加工センター、YKK AP(株)北海道工場などを一日で見学するツアー。行程に土産店などに立ち寄るルートを組み込む)など、新港と市民の交流機会をつくり、地域への経済効果を図ります。

#### 海の古道活用

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、小樽浜益会、観光事業者、地域住民、市

平成18年度シーガル号の浜益港来港を契機として、ヨットを通して海を活用した交流・地域活性化事業を展開します。

### ③国や道との連携

#### 石狩川クルージング計画

エリア: 本町地区、茨戸地区、石狩川沿岸

推進主体: 国(石狩川開発建設部)、市

大都市札幌近郊にあって、その景観の良さや水鳥の観察スポットとして注目を集める石狩川。平成18年に国が茨戸川でクルージングツアーを試験的に行ったのを機に、今後も本格的な実施に向けての調査に協力します。

#### 修学旅行生受け入れ

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、浜益グリーンツーリズム研究会、地域住民、漁業者、農業者、国、道、市

これまで修学旅行の受け入れに向け取り組んできた農業行政と連携し、より積極的な誘致活動を展開します。

#### 【背景】

現在の修学旅行の形態は、往復と宿泊はともにするが、現地では別行動するという「分散学習」が主流となっています(全中学校の76%が実施・日本修学旅行協会平成16年)。受身観光(団体、見る観光、温泉観光)から能動観光(小グループ、学習観光、体験観光)に推移し、地域密着型の傾向にあります。

## 2 「農山漁村の価値を高める観光」で潤う

### ④石狩ブランドの確立

#### 和牛ブランド推進事業

エリア: 浜益区

推進主体: 観光協会、農協、浜益和牛生産改良組合、観光事業者、市

浜益和牛の生産者等が主体となって進める「ブランド化」を観光面からも促進するため、PR方法も含め、タイアップ事業を展開します。

○和牛共進会のイベント化

○肉牛祭りイベントの開催(ブランド化のためのPR活動の一環として、一般参加者のほか、エージェントも招聘して観光的活用を図ります)

#### インターネット通信販売

エリア: 全市

推進主体: 観光協会

平成18年10月31日に開始した「まるごと石狩宅配便」では、海産物・農産物・加工品・飲料・銘菓・雑貨・姉妹都市商品等を通信販売しています。今後はインターネットを活用して販売することを図ります。

○市内業者・市民に販売ブースの貸し出し(各自管理のもと)

### ⑤ 産品販売体制の整備・充実

#### 「朝市」活性化プロジェクト

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、漁協、農協、漁業者、農業者、市

漁業者と農業者など異業種間が連携を強化し、共同開催や委託販売などの取り組みを進め、「朝市」の活性化を図ります。

○いしかり湾漁協「朝市」／あつた港朝市／浜益ふるさと市場／いしかり地物市場

#### 「おいしい石狩」プロジェクト

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、漁協、農協、観光事業者、地域住民、市

「石狩」＝「おいしい食べ物」のイメージ付けのため、沿道で気軽に石狩の「海の幸」などを堪能できる「間食観光」を提供します。

### ⑥ グリーンツーリズムの推進

#### グリーンツーリズム

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、漁協、農協、浜益グリーンツーリズム研究会、観光事業者、地域住民、ボランティア団体、漁業者、農業者、環境団体、市

都会で暮らす人々に農林漁業の体験プログラムを提供することで、多くの「石狩の農林漁業ファン」を創出することを図るため、一過性の観光から観光客(都会で暮らす人々)が何度も訪れる地域づくりを進めます。

○浜益グリーンツーリズム研究会「うまいもの探検隊バスツアー」の内容の充実

○農業、漁業者への参加促進

○研修会の開催により、メニューの充実

○ふるさと会員制度の研究と事業化

○耕作放棄地を活用した農業体験

○スターライトウォッチング

○フットパス体験(普段入ることができない場所を散策し、自然を満喫。丘陵地を歩くなど)

○自然(野鳥・森林・巨樹巨木・川など)観察会

### 3 「お客様の視点から始める観光」で潤う

#### ⑦受け入れ体制の整備

##### 市職員の意識改革研修

エリア: 市役所内      推進主体: 市

地域住民の自信や誇りを醸成し、まちの活性化を図るためには、まず、市職員が観光客(外部)との交流を通じて自らの地域の魅力を再発見することが求められます。そのため、市職員のホスピタリティ向上を目的として、観光行政の第一人者(観光カリスマ)を招き、「観光行政の重要性について」と題した講演会などを開催します。

##### 「おもてなしの駅」プロジェクト

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、漁協、農協、商工会議所、商工会、観光事業者、市民、市

“道の駅”の市民版”を目指して、市民の協力に基づき、観光客に無料でトイレ・休憩所・観光情報の提供を行う「おもてなしの駅」を、公共施設や個人商店などあらゆる既存空間を活用し、市内に展開します。

【条件】まちの案内人常駐／トイレ・休憩場所がある／地域の情報提供ができる

【事例】本庄市の「まちの駅」:退職者が空き店舗を利用して開設した「おもてなしの駅」、「植木の森の駅」(造園業)、「香りと遊ぶ駅」(仏具店)、「レンガ造りの菓子の駅」(洋菓子店)など、市内32カ所に展開。観光や買い物の途中で一服しようと訪れた人に周辺の観光情報や休憩スペースを提供し、住民同士の交流の場となっています。

##### 観光地美化推進キャンペーン

エリア: 全市

推進主体: 観光協会、観光事業者、地域住民、市

まちの美化は市民の地域に対する愛着・誇りの醸成につながることや、観光地のごみの散乱は観光客を失望させるため、地域住民参加型のごみ拾いとごみ持ち帰り運動を展開します。

【展開予定地】海岸部、濃屋山道、黄金山、厚田公園など

##### 公衆トイレ改修整備研究

エリア: 全市

推進主体: 観光戦略会議

社会情勢の変化などに的確に対応しながら、必要な時期に改修・整備に取り掛かれるよう、事前調査を展開します。

##### ユニバーサルデザインの推進

エリア: 全市

推進主体: 観光戦略会議

子育て世代や高齢者、障がいを持つ方にも安全・快適に観光が楽しめるよう、観光関連施設等の整備にあたっては、すべての人に優しいユニバーサルデザインの導入に努めます。



#### ⑧情報ネットワークの整備・充実

##### 案内看板整備研究

エリア:全市

推進主体:観光戦略会議

車で訪れる観光客が圧倒的多数であること、また車で通過する人を誘客するため、見やすい案内板の研究・整備を進めます。

---

##### 観光情報提供ツールの充実

エリア:全市

推進主体:観光戦略会議

「発見」や「体験」を通じて思い出に残る旅を演出し、リピーターなどの“石狩ファン”を創出するため、重点プロジェクトにおいて、石狩観光の新たな観光情報提供ツールの充実に努めます。

#### ⑨交通ネットワークの整備・充実

##### 交通インフラの整備促進

エリア:全市

推進主体:国、道、市

観光流動をスムーズにし、市民の日常生活上の交通環境を確保するとともに、広域的な交通ネットワークを確立するため、国などと連携して交通環境の充実に努めます。

○国道231号に、パーキングエリアを整備したビューポイントの設置

---

##### 冬季道路情報の提供

エリア:全市

展開時期:平成21年度(国のスケジュールによる)

推進主体:観光協会、国、市

冬季観光客の入り込みの減少を抑えるため、平成17年度から銭函留萌間で国が実施している「冬季の道路状況提供システム」の開発研究に全面協力し、平成21年からの導入を目指します。

【例】冬期間の厚田区・浜益区では、吹雪などの天候状況から、観光客の入り込みが急激に落ち込み、結果店舗の休業、一時営業移転など、さらに客足が遠のくという悪循環になっています。この状況を解消するため、特に厚田区・浜益区の天候や道路状況について、石狩観光協会のホームページに写真を含めた情報提供を行います。

### 4 「持続可能な観光」で潤う

#### ⑪観光事業者への支援

##### 観光ビジネスに関する相談窓口の開設

エリア:全市  
推進主体:市

観光関連の創業を目指す方を支援するため、相談窓口を開設します。

- 事業プランニング相談
- 先進地事例情報の提供
- 行政機関などへの許認可手続きの支援
- 空き店舗情報の提供

#### ⑫広域観光の推進

##### シーニックバイウェイの推進

エリア:国道231号沿線  
推進主体:国、道、市

みちをきっかけに地域住民と行政が連携し、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを図る目的で、道が「シーニックバイウェイ北海道」の取り組みを全国に先駆けて推進しており、平成15年度から現在まで、全道に6つのモデルルートが指定され、増毛町～幌延町をエリアとした「萌える天北オロロンルート」が次期候補となっています。これには札幌から本市を通る国道231号が主な幹線道路となっていることから、競争力のある美しく個性的な石狩の実現に取り組み、広域観光圏の形成を目指します。

##### 外国人観光客誘致活動

エリア:全市  
推進主体:観光協会、観光事業者、国、道、市

国で実施している道内の外国人客向け視察ルートに石狩市を組み込むよう働きかけ、外国人観光客の誘致活動を展開します。

## 第4章---アイデア・ヒント集

重点プロジェクトと基本施策以外に、本市において展開することが可能と思われる事業を、他市町村の成功事例などを基に示します。

### 1.「地域個性を生かした観光」で潤う

#### ●エコツアー(自然体験型観光)

ガイドによる小人数の自然と親しむプログラムを企画・展開。

\*「いしかり砂丘の風資料館」による「石狩浜ビーチコーミング(海岸を歩いて漂流物を探す)」がある。

#### 【例1】 室蘭のホエールウォッチング

観光船に乗って室蘭港の外洋に出没するクジラやイルカの群れを観察するツアー。民間の運航会社「KKエルム」が運営する。海から見た断崖、奇岩の景観とともに夏季の観光として人気を博している。

#### 【例2】 ホーストレッキング

海岸や野山を馬に乗って散策するプログラム。「日高ケンタッキーファーム」や「大沼グリーンピア乗馬園」など、若い親子世帯に人気がある。中高年にもブームが広がる傾向にあり、本市でも一部行われているが、各地の乗馬クラブと連携した取り組みができないか。

【その他】 阿寒ネイチャーセンターの「スキー場を活用した熱気球体験」、知床自然センター主催の「フレペの滝・ネイチャーウォッチング」

#### ●花狩人の誘致

石狩の原野には、知られていない野生のフランスギクなどの群生地が存在する。民間の遊休地を活用して野花を栽培し、有料で「野花狩り」の観光客を誘致する。

#### ●石狩紀行物語賞の創設

プロ・アマ問わず、石狩の旅をテーマに寄稿文を書いてもらい、出版社とタイアップして発行する。フィルムコミッションも絡ませ、テレビドラマやドキュメンタリーとして大々的に公開する。

#### ●雪氷利用によるミズバショウの開花調整

マクンベツ湿原のミズバショウの見ごろは、例年4月20日ごろであるため、ゴールデンウィークに来道する多くの観光客を取り込むことができない。ミズバショウの見ごろをゴールデンウィークに合わせるために雪氷利用による開花調整を行う。

#### ●「雪のまち」企画

- ・堆積した雪山に歩道ロータリーで迷路風の道路をつけ、雪の町を出現させる。
- ・その町はライトアップし、幻想的で温かい町並みの空間をつくりあげる。

#### ●「3大肉」イベント

- 石狩・厚田・浜益のそれぞれを代表する食肉に注目して、同じテーマでイベントを開催する。
- ・石狩／馬肉、ジンギスカン
- ・厚田／望来豚
- ・浜益／浜益牛

#### ●厚田公園キャンプ場「ドッグラン」(犬の開放)

ドッグランを利用する目的で多方面から来訪する愛犬家に対し、誘客活動を実施する。

【背景】全国的にペットの出入りを禁止するキャンプ場が多いため、ペット愛好家が愛犬などとともに自然の中で楽しくキャンプをすることができない実態となっている。その反面、ペットを所有する人は年々増加傾向にあって、全体に占める割合が約4割にも達し、ペットの家族化が進んでいる。愛犬とともに過ごすことができるキャンプ場の開放を望む声も多く、多くの潜在的施設利用希望者を積極的に取り込むことができる。

## 第4章――アイデア・ヒント集

### ●市民風車展望台計画

市民風車を展望台として開放し、広く観光客を誘致する。

関係先 グリーンファンド北海道

### ●海岸線のシーカヤック

カヤック(手こぎボートの一種)は川で行われるスポーツ・レジャーとして定着しているが、近年、海岸線の景観が楽しめることで、海で行われるシーカヤックに人気が高まりつつある。

【例】知床と小樽で民間経営による活発な事業が展開されている。

### ●なりきり企画

【例1】おやこ・森の学校「木こりになろう！」

森の中で自由に遊び、遊びの中から“森のこと”や“自然のこと”を親子で学んでいくプログラム。

【例2】サマーアドベンチャーキャンプ「漁師になろう」

(寿都町の例)漁師のガイドのもとに、子どもたちが漁船に乗って漁にでかけたり、地引き網を体験し、捕れた魚をごちそうにご飯を食べる。

### ●子どものための野外教室

【例】ネイチャーキッズスクール子ども教室

「化石調査隊～ハンマーを持ってでかけよう！～」

今回のキャンプでは、500万年前に生きていたホタテ貝の仲間「タカハシホタテ」を探しに行きます。アンモナイトやそのほかの化石も見つかるかも！ さあ、ハンマーを持って出かけよう！

【例】サマーアドベンチャーキャンプ

「むしキャンプ」

クワガタムシ、セミ、トンボ、バッタなど夏の野山には魅力的な昆虫たちがたくさんいます。「むしキャンプ」では、自然豊かな北海道ならではの自然林を舞台に、虫に触れ、虫と遊び、自然のおもしろさ、多様性を体と心で感じるキャンプです。みんなが憧れる昆虫博士と一緒に虫を求めて冒険にでかけよう！

### ●海水浴場の広告媒体化

オーストラリアのビーチなどで「180mm×40mm」程度のヨットのセール形フラッグを広告媒体として利用している。海水浴場内や駐車場等に展開し、収益を得る。

### ●雪壁ウォーク

知床では、冬場に通行止めとなる知床横断道路を早春の開通より1週間早く除雪し、4キロのコースを歩く「知床雪壁ウォーク」というイベントを実施している。人の背丈より高い雪壁の中を歩けるとあって、全国から400人もの参加者がある。同様のイベントを厚田区で開催する。

### ●樹氷の道

古くに利用された「氷橋」をイメージして、街路樹を凍らせた道を作り、寒さを楽しむ場を提供する。

【例】層雲峡の氷瀑まつり

## 第4章---アイデア・ヒント集

### 2.「農山漁村の価値を高める観光」で潤う

#### ●新規製品のパッケージに観光情報を掲載

厚田区で進めている商品パッケージや包装紙に観光ポイントを載せるという取り組みを全市で展開する。新規製品のパッケージはデザインを共通化する。大きな宣伝効果が期待され、国や道の施策との連携からも支援が得られやすい。

#### ●市長がガイドする「石狩の食べ歩き」

市長自らトップガイドとなって「石狩の食」の魅力を内外に発信するイベントを開催

・食のイベント(食を通じた石狩の魅力発信)

・石狩食材を一流調理師が料理

・3日間限定(森・海)食のレストラン開設

・地域レストラン

・農村レストラン

対象エリア:全市

推進主体:観光協会、観光事業者、市

#### ●クラインガルテン(滞在型市民農園)

「クラインガルテン」とは、農園付きで宿泊・休憩施設(ラウベ)がある施設のこと。国内ではおおむね管轄の市町村が設置しており、管理運営を農家組合や3セクが行う。「月数回来場し、農地を放置しない」などの規約を設けているが、地元農家が野菜栽培を指導・助言したり、地域の行事に参加するなどの交流も行われている。北海道では、栗沢町が平成10年に開園し、人気を博している。

#### 【例】旧栗沢町

<開園以来の入込客数/3万6,000人強、面積10.41ha、農園27区画(一区画300㎡)年間使用料/24万円(主に札幌市民・満杯状態)、その他日帰り型市民農園100区画/34~50㎡・1㎡当たり年間200円>

遊休農地の活用や地元農家との交流による地区活性化に寄与できるなどのメリットが見込めるため、自然の家や公民館分館などの廃止施設をラウベに活用するなど、石狩市にあった運営方法を検討する必要がある。

### 3.「お客様の視点から始める観光」で潤う

#### ●一人10m草刈り運動(観光地美化推進キャンペーン)

市民一人ひとりが地域の環境美化向上に取り組むことで、自らの地域を大切にするとともに誇りと思えるよう、ホスピタリティ精神の向上を目指す運動。通常行われている国道・道道・市道のごみ拾いと併せ、一人10mの草刈りを展開する。これにより地域の景観が美化され、市全体のイメージアップにつながる。

#### ●いしかりサポーター制度

市外・道外の登録者に対し、市内協力店の割引等特典を用意し、積極的な誘客を推進する。表示ステッカーを作成し、協力店に配布する。

#### ●市民絵ハガキPR作戦

市内(区ごと)の名所・名物のイラストハガキを作成し、全戸に配布する。市民の協力を得て知友人、子どもやお孫さんに時節の挨拶とともに一言観光PRをしてもらい、市民が一体となった誘客の推進を図る。

#### ●開花情報提供

市役所、図書館などの人が多く集まる場所にミズバショウやハマナスなどの花の開花情報を提供する。

## 4.「持続可能な観光」で潤う

#### ●北の縄文回廊づくり構想

北海道、青森、秋田、岩手の4道県における縄文文化遺産の価値を見直し、全国への発信を目指す「北の縄文文化回廊づくり」のアクションプログラム。平成16年度から19年度までの4か年にわたって、4道県の住民へアピールするとともに全国へ発信し、4道県が協力して縄文文化遺産の世界遺産登録を目指す。

#### ●アーティスト・イン・レジデンス

世界各国の芸術家が、日本の自然豊かな地域に滞在し、地域住民との出会いなどを通じて、作品の創作活動を行うもの。青森市など各地でその受け入れを行っており、この受け入れ事業を通じて、アーティストの創作現場を市民や観光客へ公開、作品展を実施するなど、観光客の誘致促進を図っている。本市においての受け入れ体制構築を検討する。

#### ●円滑バトンタッチ事業

不動産情報が不足している地域(浜益区)では、今後高齢による空き店舗が予想され、地域経済への影響が懸念される一方、ビジネスチャンスを探求し、事業化意欲のある人々も存在する。こうしたニーズをマッチングし、空き店舗になる前に円滑に事業のバトンタッチができるように支援する。

※現事業主への意向を確認するなど、事業化の前に調査を実施する必要がある。

#### ●外国人観光客旅行タイアップ

富良野で実施している京都とのタイアップ観光(豪州人観光客が多く訪れている京都とスキー旅行者でにぎわっている富良野を結び、日本で2度楽しむ旅行を企画)を参考にして、雪、氷、雪合戦、トレッキング、スノーモービルなど冬の遊びなどを提供する。

#### ●広域募集

市内向けの企画でも、参加募集は広域で行うことで、市外の人々との交流機会を市民に提供する。新聞などでは広域版に掲載されることから露出範囲が拡大し、石狩のPRにつながる。

#### ●石狩応援団の設立

本市をふるさととする道外(主に首都圏)在住者に働きかけ、石狩の産物PRなどを応援してもらう。

市長やまちの有名人との交流会の実施などで意識付けを図る。

#### 5. 市民からのアイデア

##### ●歴史・文化見学ツアー

市内にある歴史・文化資源を活用した見学ツアーを企画、展開。

【例】 了恵寺宝蔵館、石狩美術館、尚古社資料館、旧長野商店、弁天社、石狩八幡神社、無辜の民像などの見学ツアー

##### ●サイクリングロード

札幌大橋～石狩灯台間や石狩川沿いにサイクリングロードを整備する。

##### ●桜の名所づくり

市民から募金を募って苗木を買い、茨戸川のほとりに桜の木を植えるなどして、静内や函館に負けない桜の名所を作る。

##### ●本町地区の観光ルートの充実

本町地区の既存施設を活用したりなど、観光ルートの充実を図る。

【例1】 旧長野商店で売店・子供の昔の遊戯を紹介する。

【例2】 個人所有のレンガ造り倉庫を借り上げる。

【例3】 運上屋棟の軒下で売店・物産展・炭焼きを行う。

【例4】 本通りに土産屋やお休み処をつくり、弁天歴史公園とを結ぶ循環型の観光ロードを開発する。

##### ●キャンプお助け

アウトドア初心者向けにキャンプ用品の貸し出しやノウハウの提供を行う。

##### ●お土産屋さん倍増計画

魅力あるお土産などを取り揃えた店舗を増やす。

##### ●「いしかり丼」PR作戦

「いしかり丼」が郷土料理として定着するよう更なるPR活動を展開する。

##### ●文化財の保護推進

観光的観点から市内の文化財の保護を推進する。

【例】石狩弁天社、郷土芸能(越後盆踊り、石狩ハオイ)

#### 終わりに・・・

本市の観光振興に資するアイデア、観光で地域が潤うヒントは、これに書かれていることがすべてではありません。むしろ、これらを発想のきっかけとすることで、さまざまな活動が生まれ広がることを期待します。——観光で潤うまちづくりのアイデアをみなさんと「共に考える窓口」が、ここにあります。

#### ●共に考える窓口

石狩市経済部商工労働観光課観光担当  
〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30-2  
TEL 0133-72-3167  
FAX 0133-72-3540  
Eメール syoukour@city.ishikari.hokkaido.jp  
URL <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>